



「もりもりブック」を「ボロボロブック」に!?



前期評議委員会(写真左から)
2年1組 鍛冶奈菜子さん 2年2組 木村咲哉さん 2年2組 村田くるみさん

大久保中学校の放課後、ミーティングルームを略してMRに、生徒たちが集まってきました。家庭学習用冊子「毎日チャージ元気もりもりブック」を使うなど自主的に勉強をします。

「もりもりブック」は、市が中学生を対象に配付している問題集。この冊子を無駄にしないために、評議委員会(各学級委員)で効果的な使い方について積極



的に話し合いをしました。クラス全体で終わるまで帰らない。やってあたりまえの雰囲気づくり。

各教科の先生にどう活用したら良いかを聞き学年通信で発信。

「もりもりブックの隅がボロボロやわ」

「クラス全体がやって当たり前になってきているよ」

評議委員の皆さんも手応えはある様子。今後も、そういう雰囲気づくりと、働きかけは続きます。

日々の積み重ねは決して無駄ではありません。

MRに自然と集まって勉強し合う姿勢は、子どもたちの未来につながります。

中学生の頃から地域のボランティアとして保育所などで読み聞かせに参加していた三谷映里沙さん。

現在も大学に通いながら、MRで生徒の宿題などを教えています。

「丸暗記はあまり好きではないですね。ここはこうだから。とすぐ教えるのではなく自分で考えさせることを意識しています」

「また、本を読む大切さ。難しい本ではなく小説であっても、それなりの理屈・順番があり、成立します。その中で、論理の組み立て方が学べるんで

すよ」

三谷さんの学び方の1つとして習ったことを身近なところに活用すること。

例えば、学校で雲について勉強をした場合、そこから身近な結露についての原理を考えてみます。このように生活の中に置き換えることで生徒たちの理解も得られるといえます。

「学力は数学や英語の成績だけでなく、生活の中で活用できる力っていうのも、学力のひとつだと思っています」

三谷さんが自分自身の経験を踏まえて感じた学びは、生徒たちの学び方につながります。

成績だけが学力ではない



大久保中学校卒業
京都大学総合人間学部
三谷映里沙さん



チャレンジノートGO!?



学ぶ意欲をつなぐ



三郷小学校には、チャレンジノートがあります。昨年二学期から、流行りのゲームに乗っかって「チャレンジノートGO」に名前を変更。

「よしー」

中谷俊夫校長は、少しでも子どもたちの興味を持ってもらうためにひらめきました。

これは宿題の他に自学自習を重点的に考え、家庭学習の底上げ、家庭と連携できるものとして、自らが進んで取り組むノートです。授業中の疑問に思ったことを調べたり、復習など、内容は自由。

「どうやって子どもたちの力を伸ばしてあげるか、子どもたちの頑張りをどう見取っていくか」

そう考えたときに、毎時間の積み上げが見えるものとしてノートが一番だと考えました。



三郷小学校 中谷俊夫校長

また、5年1組橋本佳代先生、4年1組林千代先生は、「発表やテストももちろん大事ですが、課題・問題・考え・友達の考え・分かったことを自分の言葉でまとめることが大事ですね」

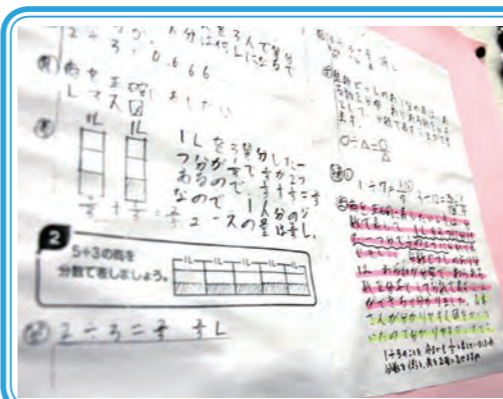
そう答えてくれました。

中谷校長をはじめ、先生方の授業・自学自習づくりの取り組みは、子どもたちの学習の変化につながるでしょう。



「やる子、やらない子の差は徐々に縮まってきていますよ。チャレンジノート達成者には賞状を渡していて、その賞状にはキラキラのシールを貼るんです。子どもたちは喜んでいきますよ」

中谷校長の発想のユニークさがうかがえました。



- ◇ピンク…学習で分かったこと(認知的側面)
- ◇黄…友達の意見や考えの良いと思ったこと(協同的側面)
- ◇黄緑…これからこうしていきたいこと(情意的側面)

授業のふり返りで書いたものを先生が評価。3色マーカーでモチベーションアップ!

子どもたちは、3色の色を塗ってもらえるよう、これを励みに頑張ります。

